

会期中の関連イベント

市民美術講座
「極私的タイガー立石論」
5月22日(土)
講師:薬科英也(当館上席学芸員)

「サトウ画廊コレクションから見るタイガー立石」
6月26日(土)
講師:森啓輔(当館学芸員)

ともに14:00~(13:30開場予定)
11階講堂にて/定員60人(事前申込制)/聴講無料
*申込方法など詳細は美術館ホームページをご確認ください。

*その他、関連企画を現在予定中です。

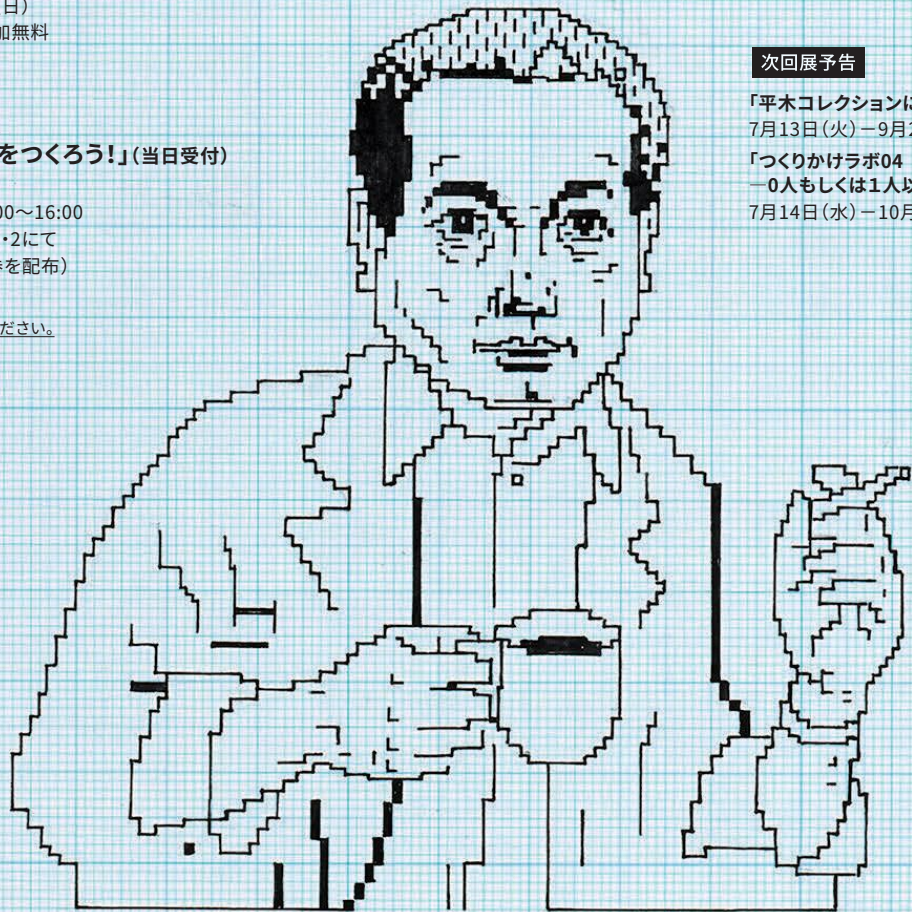
オンラインワークショップ
「おうちでポーズを決めて、
ドット絵風なデジタル必殺技カードにしよう！」

受付期間:5月1日(土)~5月30日(日)
対象:どなたでも/先着40人/参加無料

ワークショップ
「美術館でポーズを決めて、
ドット絵風な必殺技バッジをつくらう！」(当日受付)

6月19日(土)
1回目10:00~12:00 / 2回目 14:00~16:00
4F事務室前ロビー、市民アトリエ1・2にて
各回先着5名(各回の最初に整理券を配布)
対象:小学生以上/参加費500円

*詳細は美術館ホームページをご確認ください。



《タイガー立石 自画像》1983年7月23日
『タイガー立石作品集 コンチャロ+デジタル商会』より(筑摩書房、1983年)
courtesy of ANOMALY

観覧料

一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)
*小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
*()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金
*前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:32295)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて4月9日まで販売(4月10日以降は当日券販売)
*ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18時以降は観覧料半額
*本展チケットで、5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

同時開催

「千葉市美術館コレクション選」
特集:サトウ画廊コレクションより「タイガー立石とともに」
4月6日(火)~7月4日(日)
5階常設展示室
「つくりかけラボ03 武藤亜希子 | C+H+I+B+A ART シェアばたけ」
4月15日(木)~7月4日(日)
4階子どもアトリエ(つくりかけラボ)

次回展予告

「平木コレクションによる 前川千帆展」(仮称)
7月13日(火)~9月20日(月・祝)
「つくりかけラボ04 飯川雄大 | デコレータークラブ」
~0人もしくは1人以上の観客に向けて
7月14日(水)~10月3日(日)

1	2	3
4	5	6
7		
8		9

表:1《ハン》1963年(千葉市美術館蔵・サトウ画廊コレクション) / 2《Il Libro della Terra》1980年 / 3 絵本『とらのゆめ』より(福音館書店) 原画 1984年(個人蔵) / 4 漫画集「Tiger Tateishi」1968年(表紙) / 5《Consciousness about Humanbody》1975年 / 6《哀愁列車》1964年(高松市美術館蔵) / 7《吾富士》1992年(泉和浩氏蔵) / 8《仮想(虎祭)現実》1993年(泉和浩氏蔵) / 9《富士のDNA》(部分) 1992年
*2,5,9 courtesy of ANOMALY

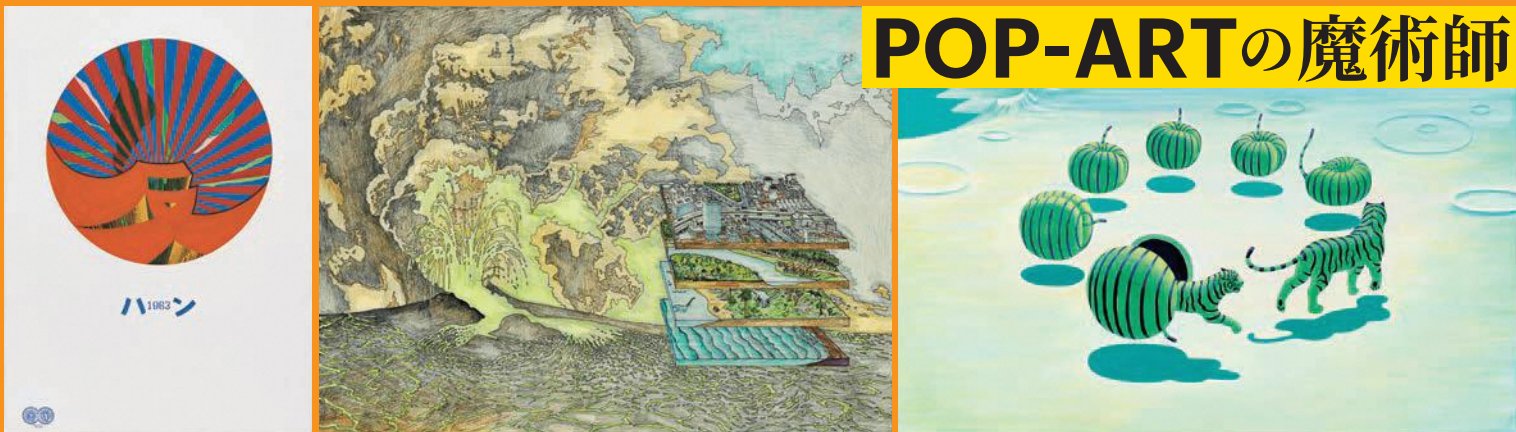
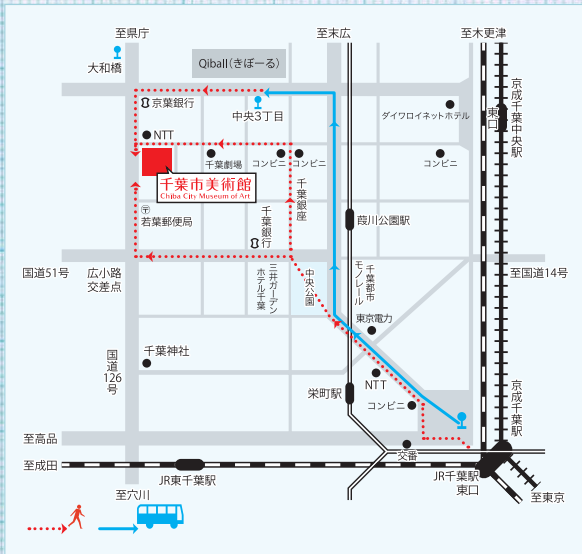
交通案内

- JR千葉駅東口より 徒歩約15分/バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分/千葉都市モレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩約5分
 - 京成千葉中央駅東口より 徒歩約10分
 - 東京方面から車では 京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く
- *地下に機械式駐車場があります(車高155cmまで)。
*シェアサイクルスポットがあります。

*館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。
・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒の徹底にご協力ください。
*内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
Tel.043-221-2311
https://www.ccma-net.jp

Design: Fujimoto Toshiyuki



2021.4.10(土)~7.4(日)

開館時間=10:00~18:00(金・土曜日は20:00まで)
*入場受付は閉館の30分前まで
休 室 日=5月6日(木)、5月24日(月)、6月7日(月)
主 催=千葉市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協 賛=ライオン、DNP大日本印刷、損保ジャパン
協 力=ANOMALY

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

大・タイガー立石展
TIGER Tateishi: The Retrospective
千葉市制百周年記念

絵 画、陶彫、マンガ、絵本、イラストなどのジャンルを縦横無尽に横断しながら独創的な世界を展開した立石紘一、ことタイガー立石、こと立石大河亞(1941-98)。

1941年12月、九州・筑豊の伊田町(現・福岡県田川市)に生まれた立石は、大学進学のために上京。63年の「読売アンデパンダン」展に出品し、翌年には中村宏(1932年生)と「観光芸術研究所」を結成。時代や社会を象徴する人物やイメージなどを多彩に引用して描かれたその作品は、和製ポップ・アートのさきがけとして注目を集めました。65年からは漫画も描きはじめ、「タイガー立石」のペンネームで雑誌や新聞にナンセンス漫画の連載をもつまになります。60年代末から多くの子どもたちが口にした「ニャロメ」ということばは赤塚不二夫(1935-2008)と交流があった彼の造語でした。

マンガの制作が多忙になった1969年3月、ミラノに移住。のべ13年に

わたるミラノ時代は、マンガからヒントを得たコマ割り絵画を精力的に制作する一方、デザイナーや建築家とのコラボレーションで数多くのイラストやデザイン、宣伝広告などを手がけています。

1982年2月に帰国し、85年から千葉を拠点に活動します。90年以降は絵画や陶彫作品を「立石大河亞」、マンガや絵本を「タイガー立石」の名前で発表しました。

立石のどの時期の作品も、さまざまなきごとや観念が地層のように積み重なっています。このため、「見る」だけではなく「読む」ことによって、作者がつくり出した世界だけでなく、わたしたちの思考の回路も多次元にひろがるかのようです。

立石は1998年4月に56歳という若さでこの世を去りましたが、没後20年を過ぎ、生誕80年をむかえる今年、約200点の作品・資料によってその多彩な活動をふり返ります。

*会期中、展示替を行います。

タイガー立石の「大」世界



《立石紘一のような》1964年 高松市美術館蔵



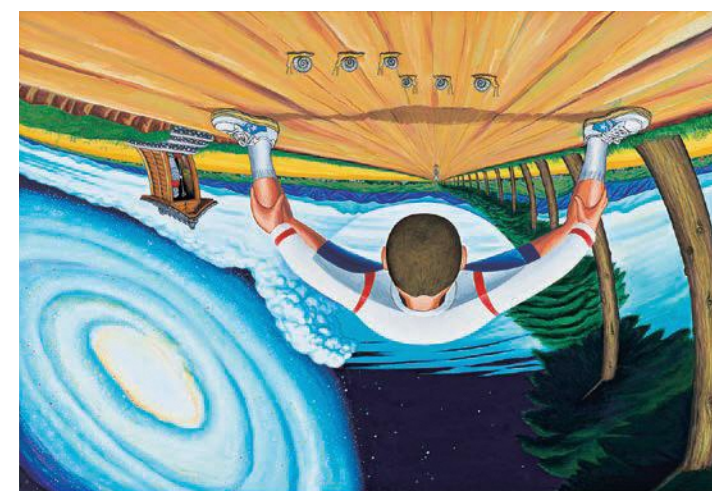
《タイガー・ゲルニカ》1970年 courtesy of ANOMALY

きのう、
きょう、
あした、
多次元の
なつかしい世界

絵画



《昭和素敵大敵》1990年 田川市美術館蔵



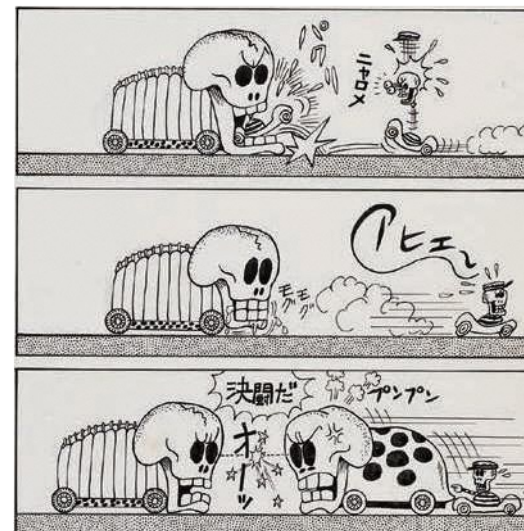
絵本

子どもたちを
とりこにした、
ふしぎな世界

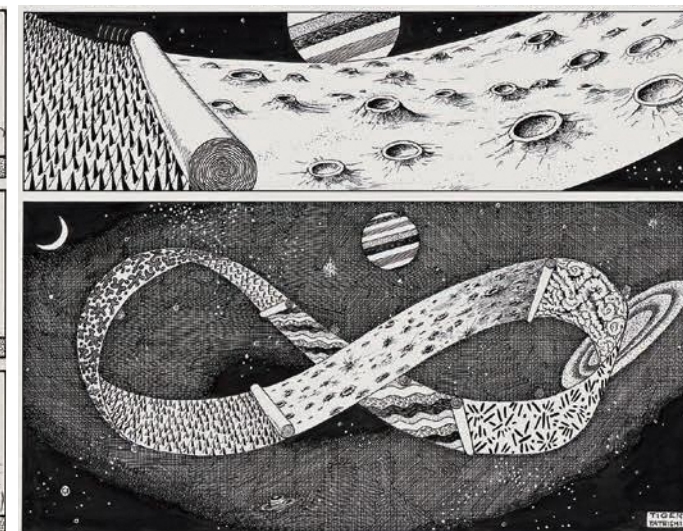
『さかさまさかさ』より(原画)
(野崎昭弘・文、福音館書店、1986年) 個人蔵

マンガ

日本から宇宙へ、ナンセンスな世界



「コンニャロ商会」より(原画)
(『毎日中学生新聞』、1967年) courtesy of ANOMALY



《宇宙はいろいろ エンドレス》(のち、『帯世界』に改題)より(原画)
(『虎の巻』工作舎、1982年) courtesy of ANOMALY



陶彫

360°
のひとこの世界



《TARO》1996年 個人蔵(青森県立美術館寄託)

絵巻物

全長約9mの世界!



《水の巻》(部分) 1992年 豊田市美術館蔵 *作品保存のため一部を展示(会期中、展示替を行います)